

広島市植物公園 見どころ案内

春にぎわう日本庭園

ウメからバトンを受けるように入口のモモ‘関白’（バラ科）が咲き始めました。奥の湿原では春の訪れを告げるミツマタ（ジンチョウゲ科）、ミズバショウ（サトイモ科）、キブシ（キブシ科）がひっそり咲いております。

ツバキ園（ツバキ科）

平面の花が大きく平開するヒゴツバキ、南面斜面のヤブツバキの園芸品種が競演しています。

ヒサカキ（ツバキ科）

広島山野でお馴染みの樹です。この時期枝いっぱい咲く花は地味な色をして目立ちませんが、辺り一面に香りが漂い、存在をアピールしているようです。

トサミズキ（マンサク科）

名前のとおり、高知を中心とした四国地方が原産地。展望塔へ回廊を成すがごとく、つり鐘状の淡い黄色の花を、鈴なりに咲かせています。

早春の花のリレー 今度は？

マンサク（マンサク科）からバトンを受けたのはサンシュユ（ミズキ科）、ゲンカイツツジ（ツツジ科）、スモモやボケ（バラ科）。まだまだ続いています！花のリレー！！

サクラ（バラ科）

カンヒザクラやカンザクラなどの早咲きのものが花盛りを迎えています。稜線に登ると早咲きの啓翁桜や熊谷桜もご覧いただけます。

タムシバ（モクレン科）

この時期、広島近郊の山を白くするほど群生している樹です。近くに植栽してあるのハクモクレンも見ごろを迎えています。

ゼラニウム展

～4月22日（水）
コレクション数日本一を誇る、人気のゼラニウム展。八重咲きや星形の花など様々な園芸種や多様な野生種を展示。花は地味ながら葉に香りがあるゼラニウムもあります。

ヒスイカズラ（マメ科）

フィリピン原産の、緑がかった青色の花をつける植物です。大温室の一番奥に長い花房がぶら下がっています。つぎつぎと咲いて、5月初めまで楽しめます。

草木染の世界展

～4月2日（木）
いろいろな草や木を使った染色方法や芸術的展示をお楽しみください。
[展示資料館1階展示室にて]

